八甲田山の火山活動解説資料（令和８年 10 月）

仙 台 管 区 気 象 台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図１～図４）

大川原監視カメラ及び地獄沼監視カメラによる観測では、噴気は認められませんでした。

８日に青森県の協力により実施した上空からの観測では、地獄沼周辺、 酸ヶ湯沢上流の噴気や地表面の状況に特段の変化は認められませんでした。

・地震や微動の発生状況（図５）

地震活動は低調に経過し、低周波地震及び火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図６、図８）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

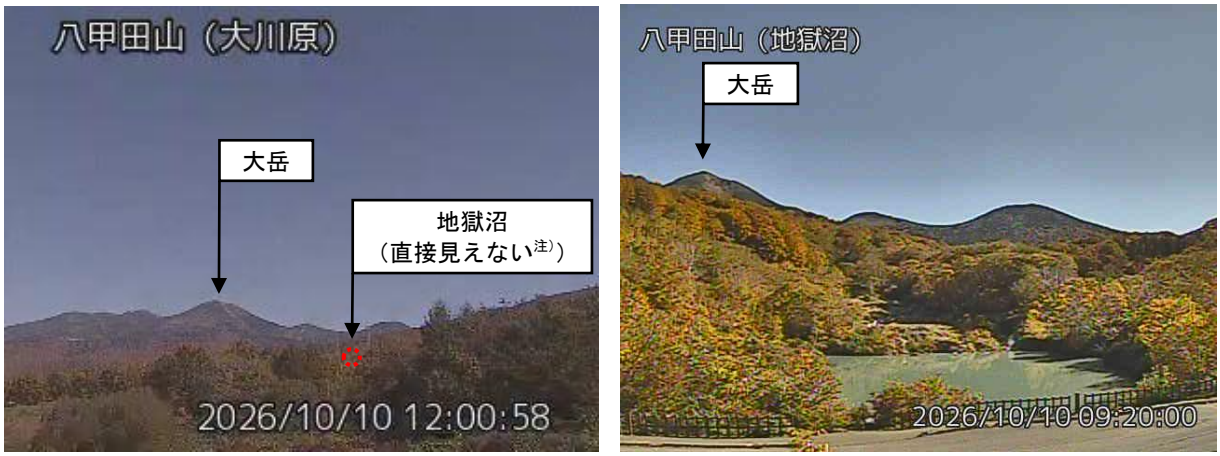


図１　八甲田山　山頂部及び地獄沼周辺の状況

・左図：大川原監視カメラ（大岳の西南西約６km）の画像（10 月 10 日）です。
・右図：地獄沼監視カメラ（地獄沼の西約 100m）の画像（10 月 10 日）です。
注）地獄沼から噴気が噴出した場合、大川原監視カメラでは高さ 100m以上のときに観測されます。
赤破線が地獄沼の位置を示します。

噴気は認められませんでした。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページで閲覧することができます。
https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php
次回の火山活動解説資料（令和８年11月分）は令和８年12月８日に発表する予定です。
資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/kazan/kazanyougo/mokuji.html
この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び青森県のデータも利用して作成しています。
本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」及び「電子地形図（タイル）」を使用しています。

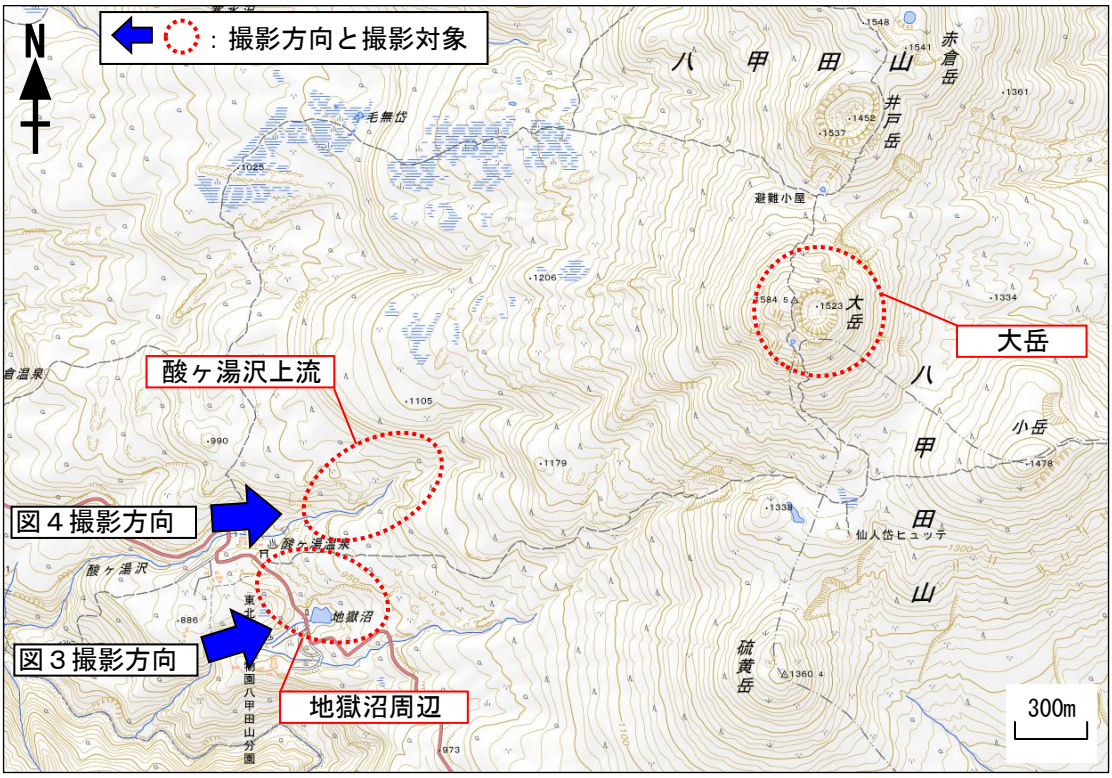


図２　八甲田山　写真及び地表面温度分布の撮影方向及び撮影対象

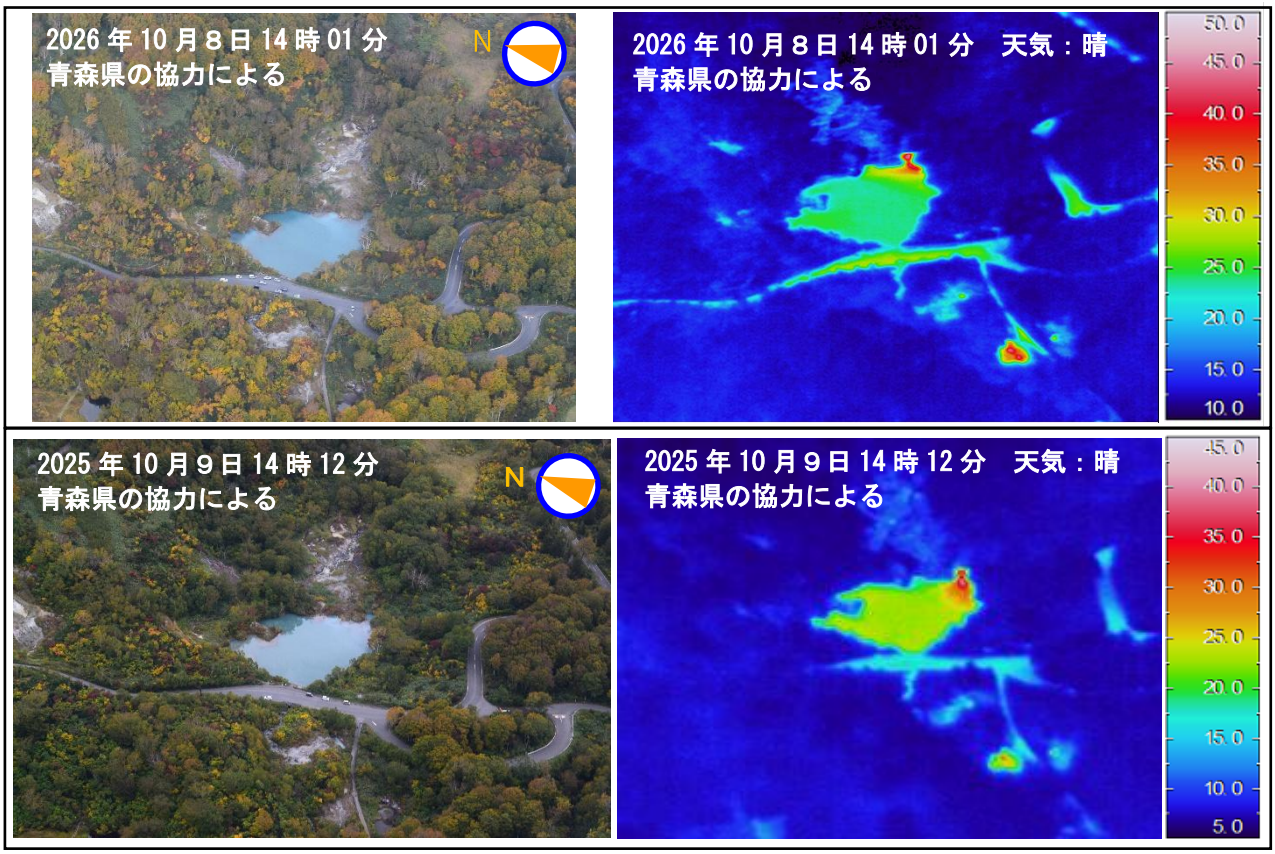


図３　八甲田山　上空から撮影した地獄沼周辺の状況と地表面温度分布

・日射の影響により、裸地等では表面温度が高めに表示されています。

地獄沼やその北西の地熱域では、過去の観測（2025 年 10 月９日）と比べて、地熱域等の状況に特段の変化は認められませんでした。



図４　八甲田山　上空から撮影した酸ヶ湯沢上流の状況
・酸ヶ湯沢上流では、過去の現地調査で高濃度の火山ガスが観測されています。

過去の観測（2025 年 10 月９日）と同様、地表面の異常は認められませんでした。

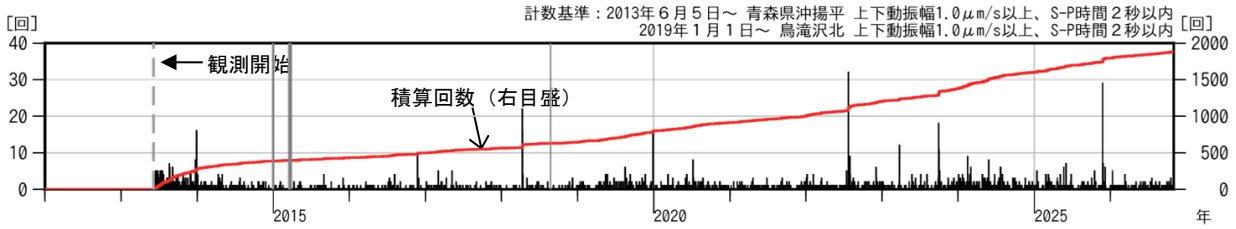


図５　八甲田山　日別地震回数（2013 年６月～2026 年 10 月）
・灰色部分は欠測を表しています。

地震活動は低調に経過し、低周波地震及び火山性微動は観測されませんでした。

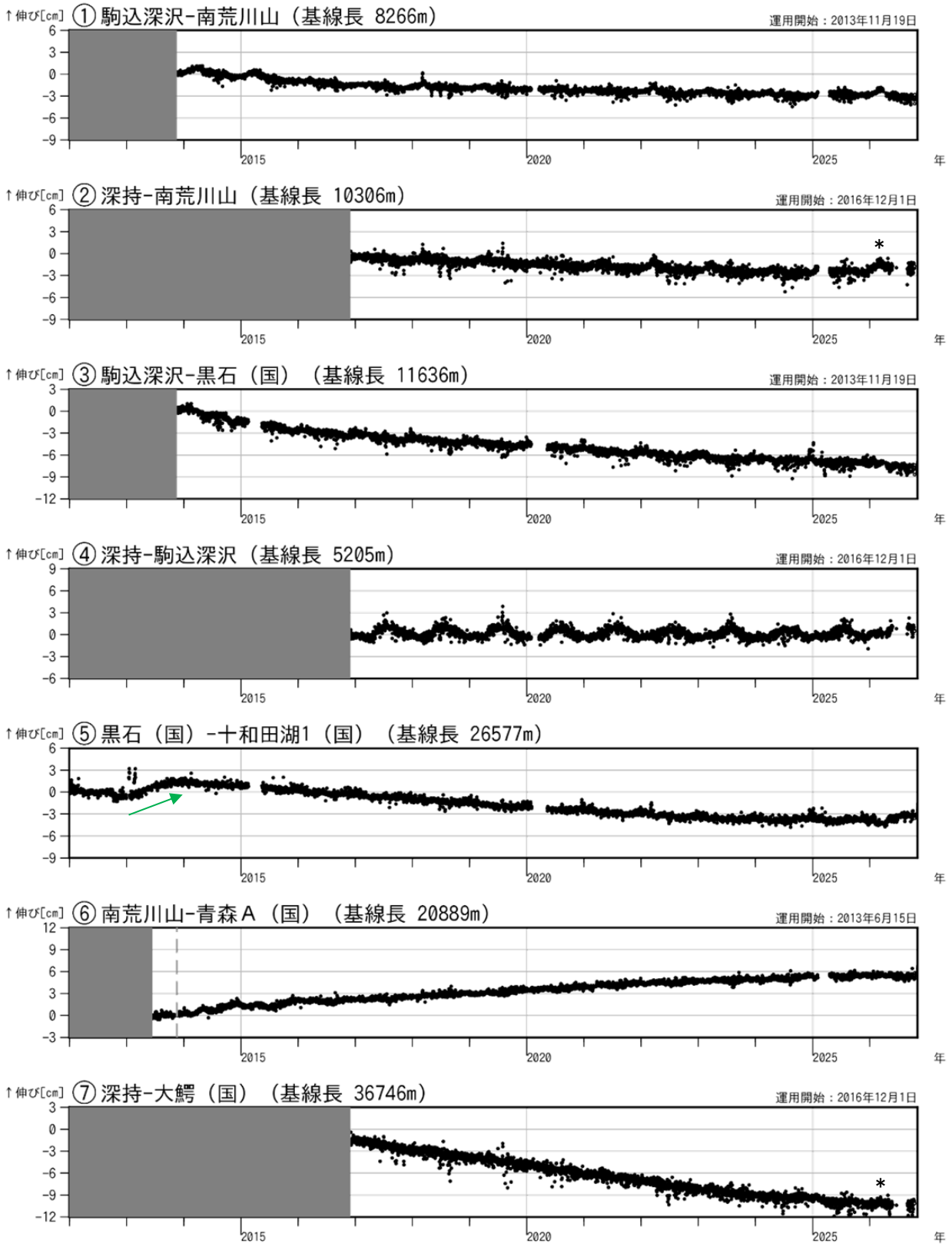


図６　八甲田山　GNSS 基線長変化図（2012 年１月～2026 年 10 月）

・①～⑦は図８の GNSS 基線①～⑦に対応しています。
・空白部分は欠測を示します。
・（国）は国土地理院の観測点を示します。
・⑥2013 年 11 月に南荒川山観測点の機器更新及び移設、解析方法の変更を行いました（破線）。
・2025 年 12 月８日の青森県東方沖の地震発生の前後に生じたステップ状の変化を補正していますが、＊で示すように、引き続き一部の基線ではこの地震に伴うと考えられる変動が含まれています。
・2026 年４月 20 日の三陸沖の地震に伴うステップ状の変化が一部基線で認められます。

2013 年の地震活動活発化の際に、山体のわずかな膨張を示す変化（緑矢印）が観測されましたが、現在火山活動によると考えられる変化は認められていません。

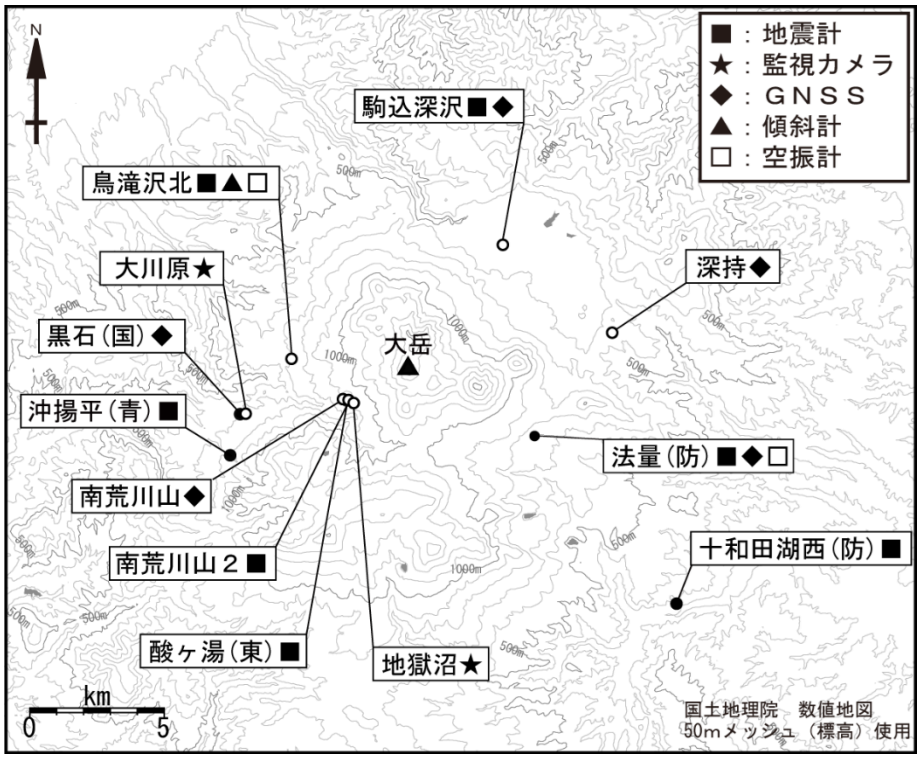


図７　八甲田山　観測点配置図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（国）：国土地理院　（東）：東北大学　（防）：防災科学技術研究所
（青）：青森県

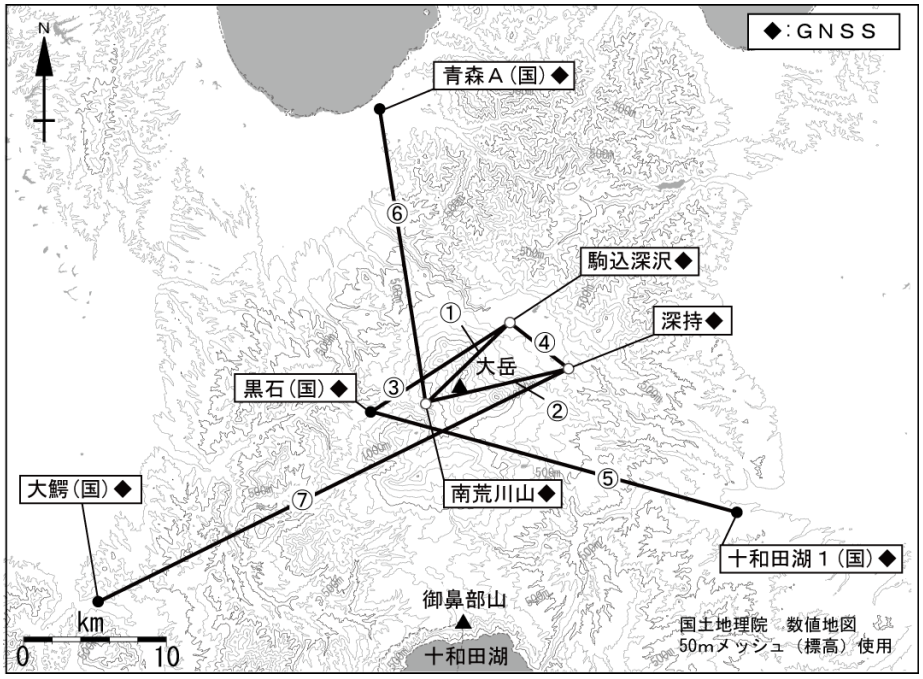


図８　八甲田山　GNSS 観測基線図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（国）：国土地理院